

～院長コラム～

『小児科領域における遺伝子診断』

最近になり、遺伝子診断の技術が飛躍的に向上しているそうです。小児科領域における遺伝性疾患の補助診断の方法として注目されています。常染色体優性遺伝病の患者さんの子供は50%の確率で同じ病気にかかります。

1人目の子供が常染色体劣性遺伝病であった場合、次の子供が同じ病気になる可能性は25%です。

常染色体劣性遺伝病の患者さんの子供が同じ病気になる可能性は、本人と血縁関係のない方をパートナーとして選んだ場合、罹患児が生まれる可能性はほとんどありません。

などなど、個人的に相談内容が異なってきます。

ただ遺伝子診断をやればよいのではなく、医療的な支援や心理的、社会的な支援も重要です。

ここ数年遺伝子診断の技術が進歩したので、原因と考えられる1個の遺伝子だけを調べるのではなく、1回で数十個の遺伝子を調べることが可能になりました。

コストも1個調べようが、数十個しらべようがコストがほぼ同額にまでなったそうです。これは非常に画期的なことです。

今後は2万個の遺伝子を一気にすべて調べることも可能です。

ただ、患者さんが持っている、遺伝子診断おきかけとなった症状とは関係のない遺伝子の情報も同時にわかってしまうこととなります。

小児の先天性疾患を調べていたら、中枢神経の変性疾患の原因遺伝子、家族性腫瘍の原因遺伝子が見つかってしまう可能性があります。

この偶発的な所見を患者さんや家族にどう伝えるかが問題になります。倫理的な配慮を必要とします。

「こども健康ネットブログ」より



なかしまこどもネット QRコード
※名前を入力して送信して下さい



こども健康ネットブログ
QRコード

なかしまこどもクリニック



通信

2014年7月号

なかしまこどもクリニック 瑞穂市十九条(パロー北)

ホームページ www.n-kodomo.com

診療時間		月	火	水	木	金	土	日
午前	8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	
午後	14:00~15:00		△		★	△		
	16:00~18:30	○	○			○		

★:漢方外来 14:00~17:30 受付

△:乳幼児健診及び予防接種



診療予約

058-327-4891

お問い合わせ

058-327-3100